

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表  
(平成21年10月分)

ご協力ありがとうございました。平成21年10月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 168社 回答 157社 回答率 93.5%

調査項目	前 月 比					計	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況		10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況	
売上数量	16社 10.3% (12.4)	34社 21.9% (19.6)	57社 36.8% (37.3)	29社 18.7% (20.3)	19社 12.3% (10.5)	155社	3社 2.0% (0.7)	4社 2.7% (0.7)	13社 8.7% (9.4)	25社 16.8% (13.4)	104社 69.8% (75.8)	149社
売上高	16社 10.3% (10.3)	36社 23.1% (20.6)	53社 34.0% (36.1)	32社 20.5% (22.6)	19社 12.2% (10.3)	156社	2社 1.3% (0.7)	2社 1.3% (0.7)	10社 6.7% (6.6)	25社 16.7% (11.3)	111社 74.0% (80.8)	150社
在庫数量	2社 1.3% (2.7)	17社 11.3% (15.6)	81社 54.0% (42.2)	43社 28.7% (31.3)	7社 4.7% (8.2)	150社	8社 5.5% (7.6)	7社 4.8% (3.5)	28社 19.2% (16.7)	29社 19.9% (14.6)	74社 50.7% (57.6)	146社
販売単価	1社 0.7% (0.7)	5社 3.3% (13.3)	89社 58.9% (60.7)	51社 33.8% (21.3)	5社 3.3% (4.0)	151社	2社 1.4% (1.4)	4社 2.8% (2.7)	19社 13.1% (13.0)	20社 13.8% (14.4)	100社 69.0% (68.5)	145社
収益状況 (粗利)	8社 5.2% (5.3)	23社 14.9% (16.4)	71社 46.1% (40.8)	38社 24.7% (25.7)	14社 9.1% (11.8)	154社	2社 1.4% (0.7)	2社 1.4% (2.0)	9社 6.1% (8.7)	34社 23.0% (16.0)	101社 68.2% (72.7)	148社
稼働率 (生産・加工設備)	5社 3.9% (4.9)	23社 18.1% (17.2)	66社 52.0% (45.1)	22社 17.3% (20.5)	11社 8.7% (12.3)	127社	2社 1.6% (0.8)	3社 2.4% (0.8)	19社 15.4% (15.3)	25社 20.3% (14.4)	74社 60.2% (68.6)	123社
入出庫の トラック台数	3社 2.1% (3.4)	27社 18.6% (14.8)	74社 51.0% (49.7)	30社 20.7% (20.1)	11社 7.6% (12.1)	145社	4社 2.9% (0.7)	1社 0.7% (0.7)	19社 13.6% (16.1)	33社 23.6% (23.1)	83社 59.3% (59.4)	140社
現在の景況感	0社 0.0% (0.0)	4社 2.6% (2.6)	37社 24.0% (23.4)	28社 18.2% (18.8)	85社 55.2% (55.2)	154社	0社 0.0% (0.7)	1社 0.7% (2.1)	13社 9.0% (7.0)	26社 18.1% (16.8)	104社 72.2% (73.4)	144社
3ヶ月後の 景況予測	1社 0.7% (1.3)	5社 3.3% (2.0)	24社 15.7% (22.8)	35社 22.9% (26.2)	88社 57.5% (47.7)	153社						
特記事項	今月も各品種の〔特記事項〕が数多く寄せられましたので、別送にてお知らせいたします											

注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります

②( )内の数字は前月のパーセントです

③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は  
特記事項欄に別途記載いたします

④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください

事務局 TEL : 047-350-5311 FAX : 047-350-5316

## 景況実感調査(10月) 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

### 薄板・表面処理鋼板

- ① 三次店、ユーザーの在庫手当一巡で、荷動きが落ち着いてきた。需要もかろうじて均衡しており、市況、荷動きともに横這いで推移している。輸入材を含めた供給動向を注視したい。
- ② 数年前前から危惧していたが、市場対応のユーザーが減少してきた。少量でも店売から紐付への転換に拍車が掛かっている。マーケットの疲弊は止まらない。
- ③ 一部リピート性製品にも、緩やかではあるが回復の動きが出始めた。材料の需給状況は中国・韓国メーカーの動向とも連動し、年明けに向け緩和方向に進む観測が強く価格低下も懸念される。政治的情勢変化の影響も加わり、建築物着工面積の回復も弱く、先行きの不透明感は強い。継続的な強い受注回復には、もう少し時間が必要と見ている。
- ④ 10月は、誤差の範囲内で上昇したが、商況に大きな変化はない。高炉各社の7～9月の決算発表を見ると、輸出と自動車関連のみが持ち直しているようだが、国内向け、とくに建築はまだ底打ちとも言えず、H22年度後半以降にずれ込む公算が強いのではないかと。モラトリアム法案も施行されれば、本来市場から退場という自然淘汰を阻み、総弱体化、需給バランスの自律調整機能の否定といった副作用も懸念される。構造的な改革と並行して、需要創出を税制等での景気刺激策の継続が必要だ。来春以降は、値下げリスクが大きいと考えている。
- ⑤ 表面処理鋼板の電気メッキ鋼板は引き続き供給量が少なく、タイトな状況が続いている。電気メッキ鋼板に関しては、東京製鉄での製造も無く、ホットや酸洗とは違った動きになりそうな感じがする。
- ⑥ 前月に比べ、自動車関係は微増だが依然低調。今後においても微増ないし横這いで、急激な増加は望めない。

### 中板

- ① 10月の販売量は前月比ダウン。需要停滞の中、東京製鉄の値下げ発表が追い討ちとなり、中板市況は現状維持が難しく、安値折り合いへと向かっている。建設関連需要回復は当面期待できず、再度、採算確保が難しい局面になっているのは確かだ。今後の東鉄の価格動向、また輸入材の動向等、予測できない厳しい展開が続くと思う。
- ② 加工屋使用料ダウン、仲間引合い減の中、東鉄の下げ発表以降、市況は下げ。在庫捌きを急ぐ動きが見られる。

## 鋼管

- ① 荷動きからすると市況は下がりそうであるが、かろうじて維持されている状態である。

## 厚板

- ① 橋梁、鉄骨とも総じて低調の中であって、当月は更に山積みが高く、加えて切板明細の発行が遅れ、前月比大幅減少となった。来月以降、しばらくは新規の橋梁の切板発注が始まることもあり若干は戻るが、多くは期待できず、先月までに集中的に入札が実施された大型橋梁や再開発関連の鉄骨の鋼材発注が本格的に始まる来年春先頃までは、この基調で推移するものと思われる。厚板の需要は、輸出、エネルギー関連以外は全般的に低調であり、価格的にも底這い状態であったが、ここに来て電炉メーカーの大幅値下げにより、再び先行き不透明感が増幅した。

## 一般用鋼

- ① 我々流通だけでなく、メーカーも底値を採っているように感じている。11月契約販価も一物二価、三価だが、このような出し値で応じてくれることを期待しても現状は指値優先の商いが続くと思われる。流通はガマンの連続だが、いったい何時まで続くことやら。それでもメーカーに対しては決して需給バランスを崩すことのないよう、生産調整をしっかりと行ってもらい、最終的には現状の相場を「生産調整」という枠で強く支えてもらいたいと思う。
- ② 今月は前月より営業日が4日多いので、意気込んでスタートしたが、結果は売上、利益とも5%減。営業日増を勘案すると実質20%減となり、二番底への助走が始まったと思われる。一年前のショック後に既成路線の設備投資は修正されながらも続行されたが、それもほぼ一段落した結果であろう。日ごとに伸びる新東京タワー(ムサシタワー)が恨めしい。

## 構造用鋼

- ① 店売りについては、9月より多少引き合いは増えたものの、内需に勢いが無く、基調は相変わらず弱含みで推移している。紐付は、自動車関連が一時的に回復しているが、建設機械については在庫調整に年内いっぱい掛かりそうである。

## その他

### <鉄スクラップ>

- ① 鉄その他リサイクル資源の発生が少ない。鋼板リース、建設現場が減少している。

### <金属表面処理加工>

- ① 10月は紐付、物件物とも計画通り。スポットは前月中旬以降、引合い、成約とも活発であったが、ロット的に小さく低調。ただし、11月からは付加価値の高い加工が多く、平均単価も上昇し、プラント案件を中心に高操業で推移しそうである。

### <鋼材加工>

- ① 見積りが、たいへん多いようだ